

<ポイント版> ぎふ経済レポート（令和元年 7 月分）

【景況感】

景気は、一部に弱さも見られるが、緩やかな回復が続いている。

【製造業】好調な業績の一方、貿易摩擦等による先行き不透明感もある

- 製造業は、主要産業の鉱工業生産指数で化学工業が大幅に低下したが、電気機械や金属製品等、上昇する産業も見られた。ヒアリングにおいては、自動車関連を中心に好調を示す声も聞かれたが、米中貿易摩擦や消費増税に加え、日韓問題等も相まって、先行きの見通せないとの声も聞こえる。

【地場産業】厳しい状況が継続している

- 地場産業は、鉱工業生産指数で食料品やパルプ・紙等が前月比で低下したが、木材・木製品や家具等は上昇した。ヒアリングでは、原料価格の高騰等により、依然として厳しい状況にあることに加え、消費増税後の冷え込みに対する懸念もある。

【設備投資】落ち込みが長期化している

- 設備投資は、工作機械受注額については、国内向けは7ヶ月連続、海外向けは8ヶ月連続で前年同月を下回っている。ヒアリングにおいては、積極的な投資姿勢の企業もあれば、慎重な投資姿勢の企業も見られる。

【個人消費】ドラッグストアが牽引

- 個人消費は、小売店の販売額については、前月に引き続きドラッグストア等が牽引し、全体としては5ヶ月連続で前年同月を上回っている。小売店の中には、キャッシュレス化に対して積極的な姿勢の企業も見られる。

【観光】観光客数、宿泊客数ともに前年同月を下回った

- 観光は、観光客数、宿泊客数ともに前年同月を下回り、昨年リニューアルした施設での反動減や、団体旅行や東アジアからのインバウンドの減少といった声が聞かれた。

【資金繰り】資金繰り環境に変化はないが、外部要因による影響が懸念される

- 企業の資金繰りは、借入環境に変化は見られない。一方で、金融機関としては、米中貿易摩擦や消費増税等、様々な外部環境による企業への影響を注視している。

【雇用】人手不足の状態が慢性化している

- 雇用面は、有効求人倍率等の関連指標が高止まりする中で、一部企業には受注減を主因として、人手不足感が薄まってきてはいるとの声もあるが、全体的には依然として人手不足が慢性化した状態にある。